

東部で顕著、地域差拡大

15市町 高齢化率4割超

2024年1月11日付・下野新聞1面



200

県内25市町の人口と高齢化率の将来推計

	人口(人、%)			高齢化率(%、%)		
	2020年	50年	減少率	20年	50年	上昇幅
宇都宮市	518,757	455,580	12.2	25.9	36.1	10.2
足利市	144,746	100,047	30.9	32.8	44.1	11.3
栃木市	155,549	112,915	27.4	31.7	41.3	9.5
佐野市	116,228	87,904	24.4	30.9	40.6	9.7
鹿沼市	94,033	64,621	31.3	30.4	44.1	13.7
日光市	77,661	43,723	43.7	36.1	49.4	13.2
小山市	166,666	150,012	10.0	25.3	35.2	9.9
真岡市	78,190	59,328	24.1	27.3	38.8	11.5
大田原市	72,087	52,338	27.4	29.0	40.0	10.9
矢板市	31,165	19,273	38.2	33.3	48.6	15.2
那須塩原市	115,210	95,216	17.4	28.1	39.9	11.7
さくら市	44,513	38,224	14.1	26.4	35.3	8.9
那須烏山市	24,875	12,959	47.9	37.5	57.1	19.6
下野市	59,507	48,870	17.9	25.8	38.3	12.5
上三川町	30,806	23,977	22.2	23.7	39.1	15.4
益子町	21,898	13,260	39.5	32.4	50.6	18.2
茂木町	11,891	5,194	56.3	42.7	61.8	19.1
市貝町	11,262	7,681	31.8	29.7	46.5	16.8
芳賀町	14,961	11,212	25.1	32.1	39.5	7.5
壬生町	39,474	31,487	20.2	29.3	38.1	8.8
野木町	24,913	18,370	26.3	32.5	40.7	8.2
塩谷町	10,354	4,587	55.7	40.1	60.7	20.6
高根沢町	29,229	22,545	22.9	25.5	37.8	12.3
那須町	23,956	15,893	33.7	40.9	54.3	13.4
那珂川町	15,215	6,986	54.1	39.7	59.4	19.8
県全体	1,933,146	1,502,202	22.3	29.1	39.6	10.5

※パーセンテージは小数点第2位で四捨五入

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口で、2050年に県内25市町のうち15市町で、人口の4割超が65歳以上の高齢者になると予測されたことが10日までに分かった。県東部を中心とする1市5町では5割を超える見通し。高齢化が加速する地域では15～64歳の「生産年齢人口」の減少幅も大きく、地域の社会経済をどう維持していくかが課題となる。

(田崎智亮)

同研究所は20年国勢調査に基づき、25～50年の市町村別の推計人口を5年刻みで算出した。

推計によると、本県の65歳以上が占める割合(高齢化率)は50年には39・6%となり、20年比で10・5%上昇する。高齢化は全市町で加速するが、特に深刻と予測されるのが県東や県北部の中山間地域だ。50年の高齢化率が最も高いのは茂木町で61・8%。塩谷町が60・7%、那珂川町が59・4%、那須烏山市が57・1%、那須町が54・3%、益子町が50・6%と見通された。

高校生向け
年組

このうち茂木と塩谷、那珂川の3町では人口規模も20年の半分未満となる。那須烏山と日光の2市も4割減。これら市町では経済活動の中心となる生産年齢人口が全体の3～4割にまで落ち込む見通しで、税収や経済の大幅な縮小が避けられない状況になる。

一方、JR宇都宮線や東北新幹線の駅を抱える市町の高齢化は比較的緩やかに進む見込みで、50年の高齢化率は小山市35・2%、さくら市35・3%、宇都宮市36・1%、高根沢町37・8%などと試算された。これらの市町は人口減少率も1～2割台と低い傾向にあるが、中山間地域との格差はさらに広がる見通しだ。

同推計が示した50年の県全体の人口構成は、県の19年時点の将来予測とほぼ重なる。人口減克服に向け県は昨年8月に少子化対策の緊急プロジェクトを策定したほか、県東部の首長らは八溝縦貫・白河道路「つくば・八溝縦貫」の早期実現を国に求めるなどしている。

福田富一知事は「新年度予算で緊急プロジェクトの第1弾をまとめている。事業を通じて合計特殊出生率を回復させたい」としている。

設問

- 【1】記事に照らして、2020年当時、県内で人口の多い市町の上位と下位五つをそれぞれ答えてください。
- 【2】記事に照らして、2020年と比較して、2050年の県内の人口減少率の上位と下位五つをそれぞれ答えてください。
- 【3】記事に照らして、2020年当時、県内で高齢化率の上位と下位五つをそれぞれ答えてください。
- 【4】記事に照らして、2020年と比較して、2050年の県内の高齢化率上昇幅の上位と下位五つをそれぞれ答えてください。
- 【5】栃木県では令和5年8月に少子化対策の緊急プロジェクトを策定してホームページでも公表している。そこで「目指すべき姿」として三つ示されている。また、第1弾実施事業も同時に進行している。

QRコードからホームページを参照して、あなたの住む市町村、または任意で選んだ市町村で①～③の課題それぞれに、第1弾実施事業を具体的に実施するならどんなことができるか、独

自のアイデアを含め100字程度で自由に論じてください。

○目指すべき姿

- ①若者の結婚の希望をかなえるとちぎ
②理想のとも働き、とも育てを実現するとちぎ
③こども・子育て世帯にやさしいとちぎ

